

We are not the enemy. We are your community. ウィー・アー・ノット・ジ・エネミー…

Sept. 11, 2001 ハイジャックされた旅客機が世界貿易センタービルに突入。数日後、米政府は「今回のテロはイスラム過激派組織による犯行の可能性が強い」との見解を発表した。時を待たず、全米各地で 200 件を超える『ヘイト・クライム』が発生した。対象となったのはアラブ系の住民・企業・Community Center。イスラム教徒やモスクへの襲撃・暴行も相次いだ。メールによる嫌がらせや脅迫、ハッキング行為なども含めると、被害はさらに大きくなる。何しろ全米には 700 万人のイスラム教徒と 600 万人のアラブ人がいるのだ。さらに、他民族（ヒスパニック）がアラブ系と勘違いされて袋叩きにあったケースも報告されている。



他民族に寛容なはずの San Francisco でも、同様の悪質な事件が相次ぎ、コミュニティセンターの前には豚の血が入った袋が置かれた。僕らが滞在した時には、9/11 の 1 周年を前に、'anti-hate campaign' が張られていた。市内の muni バスやバス停には、ぺたぺたとポスターが貼られている。そこには男女 2 人ずつ、アラブ系と西アジア系の顔と表題のスローガンがプリントされていた。

人々の反応はどうなのだろう。ウェブ上の掲示板*をいくつか覗いて言葉を失った。キャンペーンに嫌悪感を催す人の何と多いことか！これもアメリカ。美しい San Francisco の思い出も、実は綺麗な部分しか見てなかったことに気付く。しばし呆然。

*<http://www.freerepublic.com/focus/news/740403/posts> (Oct.14 現在)

Xelon 【éklslɔn】 エクスロン社 (注；正確なスペルは Exelon)

第一幕；ジャズにブルースにクラシック。たっぷりどっぷり音楽漬けのシカゴの夜。野外コンサート会場へ歩く途中、ふと目についた無料の屋外展覧会。テーマは "Earth from Above (La Terre vue du ciel)"。30m から 3000m という上空からのアングルを通して地球を説く写真展。120cm x 180cm のフレームに収められた砂漠・河川・山岳・熱帯雨林・火山・ツンドラ・耕作地や人の居住地の美しさが圧倒的。しばし言葉を失う。仕掛け人はフォト・ジャーナリスト Yann-Arthus-Bertrand。1990 年以來、10 年間、3000 時間のヘリコプターのフライトで、五大陸 85 カ国を取材。今回 120 枚を選びすぐっての展示。ユネスコ、フランス大使館、エールフランス、Fuji Film、シカゴ文化局の後援。主催は電力会社の Exelon Corporation。よく見ると「環境に優しい」ソーラーパネルが端正に設置され、これが夜間鑑賞用の照明になっていた。



第二幕；京都議定書からの離脱は、米国の電力政策を 180° 転換させた。1979 年のスリーマイル島 (TMI) の原発事故以來、20 年以上も凍結してきた原発政策に再び着手したのだ。天然ガスの価格上昇、石油価格の高騰を受け、火力発電のコストが上がりかねない状況。CO₂ 排出を嫌って稼働中の原発を廃炉にせず、免許を更新する動きも出てきた。

2002 年 10 月、原子力発電のパイオニアとされる PECO Energy と Unicom が合併し、米国電力業界最大手が誕生した。その会社は TMI を始め、現在稼働中の老朽化した原子炉を廃炉にするどころか、次々と購入して新たに設備投資する手に出た。しかも TMI の悲劇以來、初めての原発建設を原子力規制委員会 (NRC) に申請した。その会社の名は Exelon Corporation。

終幕；シナリオ未定・・・

(ナレーション) 主人公 Exelon のあなたのイメージは、「正義の味方」？それとも「悪魔